

ネパール大震災救援・復興支援

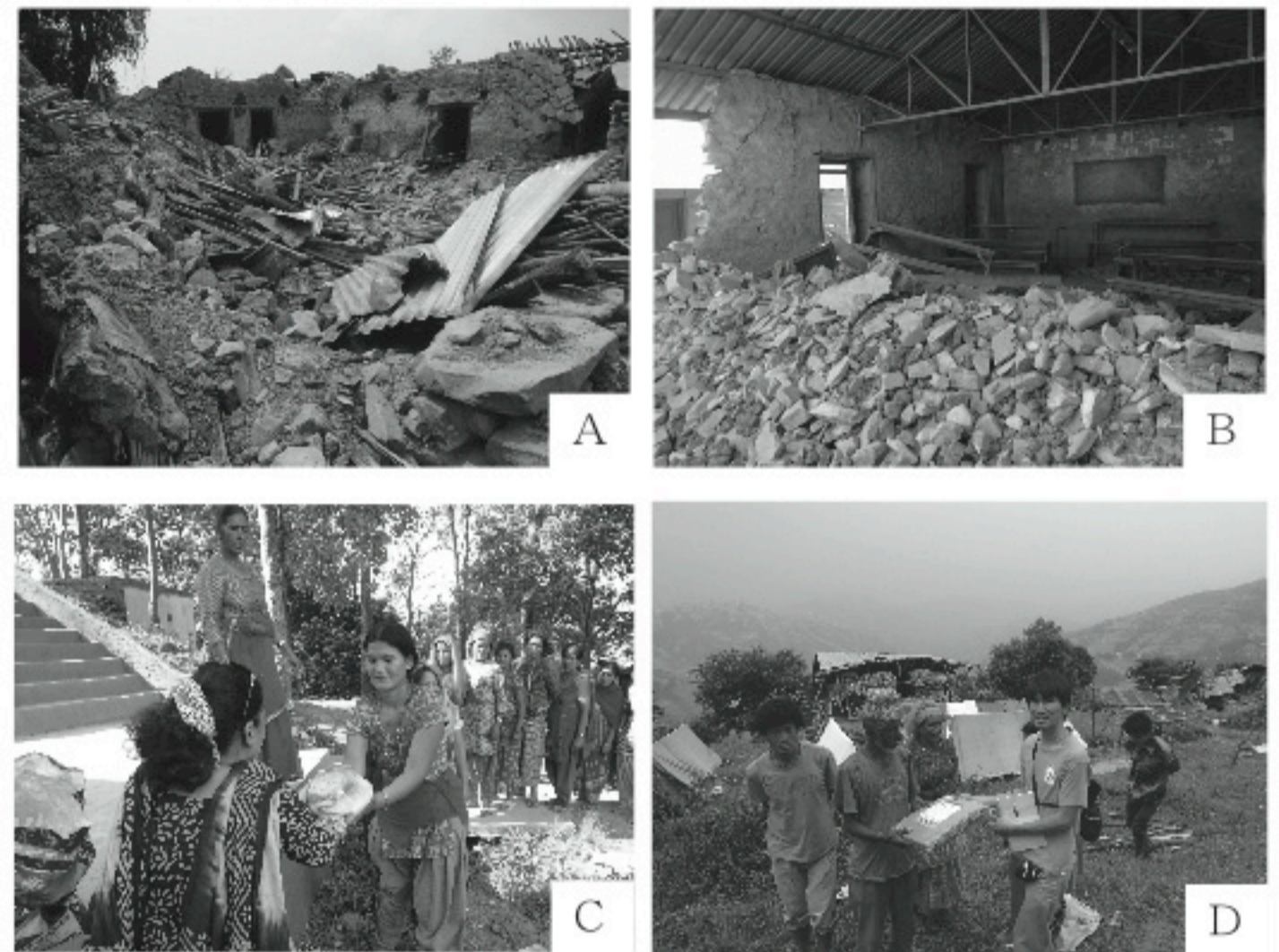
2015年4月25日、ネパール中部のゴルカ郡を震源にマグニチュード7.8の大地震が発生しました【写真A、B】。2010年度から学校建設を継続しているネパールで発生した震災に対して、JHPの支援者より心温まる救援基金をいただきました。被災された方々に心を寄せながら、「できることから」の気持ちで進めてきたこれまでの活動を報告いたします。

震災直後の現地視察・救援活動

JHPは、震災直後から、学校建設事業で協力関係のあるプラティバ氏(カトマンズ在住)と連絡を取り合い、同氏が代表を務めるラルパテネパールと連携して救援活動を行うことを決めました。

5月4日より職員1名を派遣し、5月5~8日までの4日間、カトマンズ周辺地域4ヶ所で食料や生活用品などを配布することができました【写真C、D】。レンガや石作りの家屋や学校の校舎が倒壊している数多くの現場を視察し、安全な校舎は子どもたちの教育のみならず命を支えることを痛感しました。

尚、ネパール東南端にあるJHPの支援校舎は、地震の影響を受けることなく、その後も安全に活用されています。(ネパールでの学校建設はP.9参照)



被災児童への学用品・衣類支援

ネパールでは、新憲法制定をめぐる政治の不安定が続き、少数民族を中心にバンダ(ゼネスト)が頻繁に発生。また、2015年9月の新憲法発布後はインド政府が憲法改正を要求し国境を閉鎖する事態となりました。

貧困ライン以下で生活する国民が増加し、反面で十分な支援が行き届いていない地域があることから、生活再建を目的とした子どもたちへの物資支援を行うことを決定しました。国境閉鎖による物資・燃料不足、物価高騰、政情不安による移動の制約などがありながら、2015年10月~2016年2月までに右表の通り物資を配布することができました【写真E~H】。

◎被災児童への学用品・衣類支援の内容

事業実施	JHP・学校をつくる会
協力団体	ラルパテネパール(代表:リジャー・プラティバ)
事業対象者	児童・生徒及び学校関係者
受益者数	学校7校、生徒約1100人
対象地域	カトマンズ市(バラジュ地区、ラニバン地区) シンドゥールバルク郡(ビムタール地区) ヌワコット郡(タナパリ地区)
支援内容	文房具(ノート、鉛筆、消しゴム、ボールペン、色鉛筆、カッター、クレヨン) 辞書、バック、防寒用衣類(セーター、帽子)、制服、スポーツ用具
費用総額	ネパールルピー(Rs)841250=円換算額925,375円



被災児童に靴を届ける活動

2015年12月に学用品を贈呈した学校で裸足の子ども【写真I】を見かけたことから、被災した子どもたちに靴を贈るための募金を開始。約40万円が集まり、2016年3月25日に2校215名の生徒に靴1足と靴下2足を届けることができました。【写真J】

